コロナ禍・SDGｓ・DX 時代の社会課題に挑戦。

進化する未来デザイン2022

小地域まぜこぜコミュニティ再生。

ハローワーク前公園。炊き出し担当は原田トモコ。

2021 年は年明けすぐの緊急事態宣言を受けて、原田も参加する NPO 法人が運営する子どもの居場所の活動拠点だった公共施設が閉鎖されました。

そこで、ハローワーク前の公園での炊き出し活動に移行。行き場を失った子どもとコロナ禍で職探しに来ている人、近所の高齢者等にも温まる食を提供。誰でも参加できる地域の居場所を宣言期間中に臨時で毎週開いていました。（経費は赤い羽根共同募金の助成や個人カンパ）

春には地元片瀬にて、NPO と町内会の協働で空き家を活用した居場所事業で、子どもと高齢者も一緒にフリーマーケットを開催したり、町内会のラジオ体操、花火大会を地域のグループホーム敷地を借りて入所者の皆さんと一緒に実施するなど「まぜこぜ」をキーワードにモデル的な活動がカタチになってきました。

2022 年は消費増税からのコロナ禍で人々の不安、生活困難が加速する事態となり、さらに戦争、自然災害などに対しても、公的な機関よりも効果的な支援活動に NGO、NPO といった主体的な民間団体が活躍。縦割り行政、党利党略の政治をも乗り越え主導していく役割を担ってきました。今後は、そうした現場本位の活動にもっと税金の活用、配分も委ねていく政治の未来デザインが求められてきているのだと思います。

ともに未来デザインを一緒に描き、政治・行政をも動かす多様な課題解決への活動に参加しましょう。

2019 年紹介した段ボールベッド。片瀬地区防災訓練で毎年体験コーナーで周知されるようになりました。

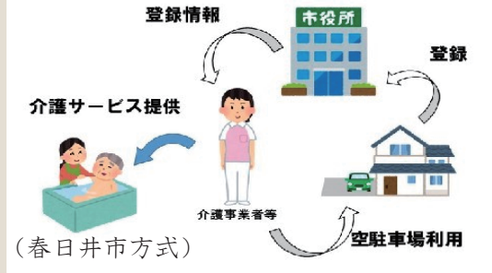
◀災害関連死ゼロに向けた取組みは普段からのご近所のチカラが大切です▶

◆藤沢市13地区→35小学校区を行政単位に

◆役所は市民センター主導型として町内会再生を

◆多様なコミュニティスクールと御用聞きに地域貢献市職員の配置を

◆在宅介護・看護支える民間 DX 活用を



（春日井市方式）

在宅サービスを充実させるのに訪問時の駐車場確保が課題にあります。訪問先近所の空き駐車場を検索・マッチングさせる民間と協働での DX システム化を進めて介護医療サービス等の提供には公費で支援。観光客への誘導では渋滞緩和を図れる仕組みを提案しています。

◆町内会が分断されない学区再編へ

◆小学校区ごと地域に障がいがあっても不登校でも来られる子どもの居場所を

◆小中学校の中にも居場所カフェを

◆タブレット活用で学校に行かなくても学習機会保障を

◆小学校区ごとに小規模多機能型居宅介護施設と地域交流施設の併設を

（大牟田市方式）

地震での直接死と震災関連死	※集計時点は異なります	直接死（人）	関連死（人）
	阪神大震災（兵庫県）	5483	919
	新潟県中越地震	17	51
	東日本大震災〈2017.9〉	15895（行方不明 2539）	3647
	熊本地震〈2016.9〉	55	47
	～2年（2018.4）	55	202

実録 働きながらの 介護日誌（通い編→同居編）“介護離職ゼロ”へ小規模多機能型居宅介護サービス活用を。

【中距離介護生活の備忘録】

21 年 7 月～都内で長年独居生活をしている 90 歳母の通い見守り本格化。デイサービスから小規模多機能型介護サービス移行など手配するも 9 月心不全で突然の入院。認知症の進行を危惧するもコロナ禍で面会できず介護度５判定に！

夜に不穏となるからとベッドに拘束。トイレ行けない入院 40 日間

【同居介護生活は突然に】

退院後の独居を断念して藤沢市に迎え入れてからのドタバタ介護日誌をホームページ・FaceBook に連載中。

今では週 6 日、自宅を 8 時出発。夕食済ませて 19 時半帰宅

退院には「投薬管理など在宅、グループホームでは無理」と病院に言われ、特養か介護付き有料ホームを勧められたが、見学に行くと色々と問題が見えてきたので、藤沢市内の“ケアニン”たちに相談。心強いアドバイスもあり在宅＋居宅介護サービス利用を決意。21 年 10 月～グループホームを申込みながら、小規模多機能型居宅介護サービスの通いを中心に在宅生活へ。

退院当初 10m も歩けなかったのが、杖さえあれば 100m も余裕に

規則的な通いと週 1 リハビリで家では杖無しトイレも自力可能に。1 カ月目で睡眠薬を止めたのが正解！夜の不穏が収まり睡眠が安定したことで介護する側がなんとか持ち応える。

心地よい風の入る縁側がお気に入り。転居による不安定化も徐々に収まる。

小規模多機能型居宅居宅サービス

（原田母の場合）週 6 日デイサービス

1 割負担介護度 3（区分変更中で概算）

介護保険の自己負担分	36,326 円
食事代（25× 昼おやつタ）	33,750 円
月額	7 万円程度

3 月～週一宿泊（1.4 万円）追加予定。

遠慮から「施設に入りたい」と本人は言うが、本人に合いそうなグループホームは申込中で、いつ空きがでて入れるかは見通せない。

週一回の晩餐で何より楽しみのワインが飲める生活に

小規模多機能型居宅介護（小多機）

通い・訪問・泊まりを臨機応変にオーダーできる介護保険サービス。個別ケースによりますが、特に認知症の場合、対応するヘルパーが日毎に変わる大型施設では当事者への個々人に応じた対応を求めるのが難しい状況です。

デイサービス等の利用だけでは暮らしが困難となる重度化防止のタイミングで活用して、離職せずにまた家族が倒れないように在宅介護できるサービスとして効果的です。

こうした小多機はじめ地域包括ケアシステムの課題についてお気軽にご相談下さい！

市の相談窓口だけでなく地域に頼りになるケアニンたちが活躍しています。これを小地域ごとに支える行政のバックアップの仕組み作りを進めたいと思います。　原田タケル